

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	4 学年
使用教科書	教育図書『書Ⅰ』、『書Ⅰプライマリーブック』				
副教材等	なし				

1 学習目標

- ・小中学校の国語科書写を基礎とし、書道の幅広い活動をとおして、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。
- ・感性を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための能力を伸ばす。
- ・書的美を感じると鑑賞能力を養い、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・漢字の書、仮名の書では、古典や古筆の学習をとおして書的美とその技法を学び、創造的な表現をするための力を育てます。
- ・創意工夫し、挑戦し、粘り強く取り組む姿勢を身に付け、「自分自身の表現」を生み出す力を伸ばします。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表している。	書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫している。 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ表している。	書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫している。 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子 ・学習記録による学習過程 ・作品 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子 ・学習記録による学習過程 ・作品 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子 ・学習記録による学習過程 ・作品 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	書へのいざない	6	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・中学までの書写を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する。 ・姿勢や執筆法を理解し、基本用筆や運筆を習得する。 	a a, b, c	活動の様子 学習記録 作品
5 6 7	漢字の書 (楷書)	20	さまざまな楷書 古典 牛欄造像記 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の成立と変遷について理解する。 ・楷書古典の臨書学習により、基本的な表現技法を習得する。 ・楷書古典の鑑賞により、書のおよさや時代背景、書者について理解する。 	a a, b, c a	活動の様子 学習記録 作品
9	漢字の書 (楷書)	8	漢字の書の作品 製作	・粘り強く工夫を重ね、臨書作品を完成させる。	b, c	活動の様子 学習記録 作品
10	漢字の書 (篆書)	8	篆刻	・落款の意義を知り、姓名印を刻す技法を習得する。	a, b, c	活動の様子 学習記録 作品
11 12	漢字の書 (行書)	12	さまざまな行書 古典 蘭亭序 風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・行書古典の臨書学習により、基本的な表現技法を習得する。 ・行書古典の鑑賞により、書のおよさや時代背景、書者について理解する。 	a, b, c a	活動の様子 学習記録 作品
1 2	仮名の書	12	さまざまな仮名 古筆 いろは歌 連綿 蓬萊切	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と変遷について理解する。 ・姿勢や執筆法を理解し、基本用筆や運筆を習得する。 ・平安時代古筆の表現を理解する。 	a a, b, c a	活動の様子 学習記録 作品
3	漢字仮名交じりの書	4	漢字と仮名の調和	<ul style="list-style-type: none"> ・書表現により、自らの思いを他者に伝えることができることを理解する。 ・感興や意図に基づいて構想し表現を工夫する。 	a b, c	活動の様子 学習記録 作品
適宜	生活の中の書		書を生活の中に生かそう	・はがきや封筒、金封などの書式について理解する。	a	活動の様子

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

単元ごとに作品を提出します。

7 担当者からの一言

「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられる取り組みを一緒に行っていきましょう！

(担当：矢坂)